

# 1 級 損 害 保 険 登 録 鑑 定 人

## 保険・一般常識 試験問題用紙

(2020年1月)

### 注 意 事 項

1. 試験責任者の指示があるまで開かないで下さい。
2. 解答用紙は試験問題用紙の最初の頁に入っています。試験開始の合図があったら解答用紙があることを確認して下さい。解答用紙がない場合は直ちに申し出て下さい。
3. 解答用紙には受験番号、氏名、受験地を必ず記入して下さい。  
受験番号は6桁の数字を左の欄から順に正確に記入し、その数字と同じ箇所をマークして下さい。記入漏れや間違った受験番号を記入すると採点できませんので、解答した内容はすべて無効(得点なし)となります。
4. 解答はすべて解答用紙に記入し、解答用紙のみ提出して下さい(問題用紙は持ち帰って結構です)。また、解答を解答用紙以外に記入しても無効となります。
5. 解答は正誤式・選択式の場合は、解答用紙の該当する問題の解答欄をぬりつぶして下さい。記述式の場合は、解答用紙の該当する問題の解答欄に解答を楷書で記入して下さい。
6. 選択式の問題で1つの問題に指定数を超えるマークをつけた場合、その問題は超過した解答数に応じて減点または0点となります。
7. HBの鉛筆またはHBの芯を用いたシャープペンシルを使用して下さい。HBの鉛筆またはHBの芯を用いたシャープペンシル以外(万年筆、ボールペン、サインペン、色鉛筆等)は使用不可です。
8. 訂正する場合は、プラスチック製の消しゴムで完全に消して下さい(消し方が不十分な場合には解答が正しく読み取れないことがあります)。プラスチック製の消しゴム以外(修正液等)は使用不可です。
9. 解答用紙の読み取りは機械処理をしますので、折り曲げたり、汚したり、記入欄以外の余白および裏面には何も記入しないで下さい。
10. 試験時間は正味50分です。
11. 試験問題の内容に関する質問は、いっさい受け付けません。
12. 試験時間中の私語は禁止します。
13. 資料等の使用はいっさい認められませんので、筆記用具、電卓以外はすべてしまって下さい。
14. 試験時間中は、携帯電話・スマートフォン等の通信機能・記憶機能を有する機器の使用は、時計として使用することを含めていっさい認められませんので、あらかじめ電源を切っておいて下さい。
15. 「受験票」および「写真が貼付されている公的本人確認書類」は机の上の見やすいところに置いて下さい。
16. 問題用紙、解答用紙の印刷に乱丁・落丁があれば申し出て下さい。

マークシート方式による正誤式、選択式または記述式の問題です。解答は問題に応じて  
 解答用紙の該当するマークを塗りつぶすか、または楷書で解答欄へ記入して下さい。

### 【問題 1】

火災保険の「物件の種類と判定」に関する次の 1 および 2 のそれぞれの記述の正誤の組合せとして、正しいものを下の選択肢から 1 つ選び、その番号を答えて下さい。

#### 1. 物件の種類と判定について

- ア. 工業上の作業に使用する電力の合計が 150kw の設備を有する金属加工工場は、そこでの作業人員の数および工業上の作業に使用する動力の合計 kw に関係なく、工場物件となる。
- イ. 工場敷地内に所在し、不特定多数の外部の者が利用できる飲食店は、その工場の製品を扱う場合には、一般物件とすることも工場物件とすることもできる。
- ウ. 併存住宅の規定に合致する建物の住居専用の専有部分およびその収容家財は、住宅物件とすることができる。

#### 《選択肢》

- |             |          |          |
|-------------|----------|----------|
| 1. ア. 正しい   | イ. 正しい   | ウ. 正しい   |
| 2. ア. 正しい   | イ. 正しい   | ウ. 誤っている |
| 3. ア. 正しい   | イ. 誤っている | ウ. 正しい   |
| 4. ア. 正しい   | イ. 誤っている | ウ. 誤っている |
| 5. ア. 誤っている | イ. 正しい   | ウ. 正しい   |
| 6. ア. 誤っている | イ. 正しい   | ウ. 誤っている |
| 7. ア. 誤っている | イ. 誤っている | ウ. 正しい   |
| 8. ア. 誤っている | イ. 誤っている | ウ. 誤っている |

## 2. 一つの建物および建物の構造級別について

ア. 住宅物件の建物の構造級別の判定にあたり、一般建物の構造級別は、建物の防火上の性能の高い方からM構造、T構造、H構造と判定され、耐火建築物の共同住宅およびコンクリート造建物は、いずれもM構造と判定される。

イ. 鉄骨造建物の工場物件（一般建物）の構造級別は1級と判定する。

ウ. 工場物件の建物の構造級別の判定にあたり、一つの建物が構造級別を異にする2以上の部分からなるときは、そのうち最も高い基本保険料率の構造級別をもって、その建物全体の級別と判定される。

## 《選択肢》

- |             |          |          |
|-------------|----------|----------|
| 1. ア. 正しい   | イ. 正しい   | ウ. 正しい   |
| 2. ア. 正しい   | イ. 正しい   | ウ. 誤っている |
| 3. ア. 正しい   | イ. 誤っている | ウ. 正しい   |
| 4. ア. 正しい   | イ. 誤っている | ウ. 誤っている |
| 5. ア. 誤っている | イ. 正しい   | ウ. 正しい   |
| 6. ア. 誤っている | イ. 正しい   | ウ. 誤っている |
| 7. ア. 誤っている | イ. 誤っている | ウ. 正しい   |
| 8. ア. 誤っている | イ. 誤っている | ウ. 誤っている |

**【問題2】**

Aさんは、自宅建物に保険金額 2,500 万円で約定付保割合 100%の価額協定保険特約付きの住宅総合保険契約を締結していました。過日、その建物が火災の発生により全焼（全損）するとともに、隣家1世帯の住宅建物3棟のそれぞれ一部が類焼しました。

損害調査の結果、Aさんの建物の罹災時の保険価額は2,500万円で、同建物の損害額は再調達価額（新価）基準で2,500万円、時価額基準で1,500万円と判明しました。また、この火災により、保険の対象の残存物の取片づけに必要な費用として、300万円を要しました。

この場合、次の1～4で支払われる保険金の金額を解答用紙に記入して下さい（支払われない場合には解答用紙に「なし」と記入して下さい）。

なお、算出した保険金の額に1万円未満の端数が生じた場合には、千円の位を四捨五入して万円単位で答えて下さい。

1. 支払われる損害保険金は、いくらになりますか。
2. 支払われる残存物取片づけ費用保険金は、いくらになりますか。
3. 支払われる特別費用保険金は、いくらになりますか。
4. 支払われる失火見舞費用保険金は、合計でいくらになりますか。

**【問題3】**

次の1～6の記述は、店舗総合保険について述べたものです。その内容が正しいものには○で、誤っているものには×で、それぞれ答えて下さい。

1. この保険では、物置、車庫その他の付属建物は、保険証券に明記した場合に限り、保険の対象に含まれる。
2. この保険では、持ち出し家財である自転車または原動機付自転車（総排気量が125cc以下のもの）が盗難にあった場合、その損害は保険金支払いの対象とならない。
3. この保険では、損害保険会社は、いかなる場合も請求完了日（保険金の支払の請求手続きが完了した日）からその日を含めて30日以内に損害保険会社が保険金を支払うために必要な事項の確認を終え、保険金を支払う必要がある。
4. この保険では、水道管または水管の凍結による破裂によって保険の対象である建物に損害が生じた場合、「破裂・爆発（気体または蒸気の急激な膨張を伴う破壊またはその現象）」による損害として、損害保険金の支払いの対象となる。
5. この保険では、家財を保険の対象とする場合、生活用通貨については、保険証券記載の建物内で盗難によって損害が生じたときに限り、保険の対象として扱われ、損害保険金の支払限度額は、1事故、1敷地内につき30万円である。
6. この保険では、火災により保険の対象の建物に損害を受けた結果、その建物に生じた損害の範囲を確定するために要する調査費用（復旧期間を超える期間に対応する費用を除く）が生じた場合、保険会社の承認を得て支出した必要かつ有益な費用（居住の用に供する部分にかかわる費用を除く）に対して、修理付帯費用保険金が支払われる。

## 【問題4】

Bさんは、同一敷地内に所在し、自分が所有する店舗専用のX建物およびY建物を保険の対象として、甲保険会社および乙保険会社に、付保割合条件付実損払特約を付帯して普通火災保険（一般物件）契約をそれぞれ締結していましたが、火災によりこれらの建物に損害が生じました。保険契約の内容および損害の状況は、次のとおりです。

この場合、X建物およびY建物の損害に対して支払われる損害保険金について、それぞれの金額を解答用紙に記入して下さい。

なお、保険金の算出にあたっての計算は、その都度端数処理を行わないで連乗するものとし、算出した額に1万円未満の端数が生じた場合には、千円の位を四捨五入して万円単位で答えて下さい。

|                | 契約時の保険価額 | 約定付保割合 | 損害額     | 罹災時の保険価額<br>(時価額) |
|----------------|----------|--------|---------|-------------------|
| X建物<br>(甲保険会社) | 2,500万円  | 80%    | 1,800万円 | 3,000万円           |
| Y建物<br>(乙保険会社) | 4,000万円  | 60%    | 2,000万円 | 3,500万円           |

## 【問題5】

火災保険の特殊契約方式に関する次の記述の正誤の組合せとして、正しいものを下の選択肢から1つ選び、その番号を答えて下さい。

- ア. 付保割合条件付実損払特約は、物件種別が住宅物件の場合、M構造またはT構造の建物またはこれらの建物に収容される動産が適用物件となる。
- イ. 特殊包括契約に関する特約は、同一敷地内に限らず、全国各地に点在する、同一保険契約者が所有する建物および設備・什器等を保険の対象に含めることができる。
- ウ. 火災通知保険特約では、保険契約者から定期的に在庫高の報告があるため、支払保険金制限額を超えた場合でも、時価額によって算出された実損害額の全額が損害保険金として支払われる。

## 《選択肢》

- |             |          |          |
|-------------|----------|----------|
| 1. ア. 正しい   | イ. 正しい   | ウ. 正しい   |
| 2. ア. 正しい   | イ. 正しい   | ウ. 誤っている |
| 3. ア. 正しい   | イ. 誤っている | ウ. 正しい   |
| 4. ア. 正しい   | イ. 誤っている | ウ. 誤っている |
| 5. ア. 誤っている | イ. 正しい   | ウ. 正しい   |
| 6. ア. 誤っている | イ. 正しい   | ウ. 誤っている |
| 7. ア. 誤っている | イ. 誤っている | ウ. 正しい   |
| 8. ア. 誤っている | イ. 誤っている | ウ. 誤っている |

## 【問題6】

店舗休業保険および利益保険に関する次の記述の正誤の組合せとして、正しいものを下の選択肢から1つ選び、その番号を答えて下さい。

- ア. 店舗休業保険の保険金額は、1事業所ごと1日あたりの粗利益額を基準に所定の額を限度に定めるが、この粗利益は人件費、発送費、広告費などの経費や税金を控除して算出する。
- イ. 利益保険の保険金額の設定方法には、営業収益の復旧見込み期間を基準とする「約定てん補期間方式」と保険価額に対して予想される最大損失額の割合を基準とする「約定付保割合方式」がある。
- ウ. 利益保険で補償する損失は、保険の対象が火災その他の担保危険による損害を受けた結果、営業が休止または阻害されたために生じた「喪失利益」と喪失利益の拡大を防ぐための「収益減少防止費用」である。

## 《選択肢》

- |             |          |          |
|-------------|----------|----------|
| 1. ア. 正しい   | イ. 正しい   | ウ. 正しい   |
| 2. ア. 正しい   | イ. 正しい   | ウ. 誤っている |
| 3. ア. 正しい   | イ. 誤っている | ウ. 正しい   |
| 4. ア. 正しい   | イ. 誤っている | ウ. 誤っている |
| 5. ア. 誤っている | イ. 正しい   | ウ. 正しい   |
| 6. ア. 誤っている | イ. 正しい   | ウ. 誤っている |
| 7. ア. 誤っている | イ. 誤っている | ウ. 正しい   |
| 8. ア. 誤っている | イ. 誤っている | ウ. 誤っている |

## 【問題7】

火災保険の拡張補償特約に関する次の記述の正誤の組合せとして、正しいものを下の選択肢から1つ選び、その番号を答えて下さい。

- ア. ガラス損害補償特約では、ショーウィンドウやショーケースのガラス等、ガラスごとの選択引受を行うことができ、保険金額も時価額を基準として、ガラス1枚ごとに設定する。
- イ. スプリンクラー不時放水危険補償特約の適用物件は、一般物件、工場物件および倉庫物件である。
- ウ. 雪災危険補償特約は、豪雪、雪崩等の雪災（融雪洪水を除く）によって、保険の対象が損害を受け、その損害額が同特約の定める所定の金額以上となった場合、保険金支払いの対象となる。

## 《選択肢》

- |             |          |          |
|-------------|----------|----------|
| 1. ア. 正しい   | イ. 正しい   | ウ. 正しい   |
| 2. ア. 正しい   | イ. 正しい   | ウ. 誤っている |
| 3. ア. 正しい   | イ. 誤っている | ウ. 正しい   |
| 4. ア. 正しい   | イ. 誤っている | ウ. 誤っている |
| 5. ア. 誤っている | イ. 正しい   | ウ. 正しい   |
| 6. ア. 誤っている | イ. 正しい   | ウ. 誤っている |
| 7. ア. 誤っている | イ. 誤っている | ウ. 正しい   |
| 8. ア. 誤っている | イ. 誤っている | ウ. 誤っている |

## 【問題8】

「地震保険に関する法律」に基づく地震保険に関する次の1および2のそれぞれの記述の正誤の組合せとして、正しいものを下の選択肢から1つ選び、その番号を答えて下さい。

## 1. 保険の対象および契約方法について

- ア. この保険では、通貨や預貯金証書は生活用動産として保険の対象に含まれるが、有価証券、印紙および切手は保険の対象に含まれない。
- イ. この保険の保険期間は、最長3年である。
- ウ. この保険では、居住の用に供する建物の所有者が所有する浴槽、流し、ガス台、調理台、棚その他これらに類する物のうち建物に付加したのものについては、これらを主契約である火災保険の対象として生活用動産に含めて契約する場合に限り、この保険の対象となる。

## 《選択肢》

- |             |          |          |
|-------------|----------|----------|
| 1. ア. 正しい   | イ. 正しい   | ウ. 正しい   |
| 2. ア. 正しい   | イ. 正しい   | ウ. 誤っている |
| 3. ア. 正しい   | イ. 誤っている | ウ. 正しい   |
| 4. ア. 正しい   | イ. 誤っている | ウ. 誤っている |
| 5. ア. 誤っている | イ. 正しい   | ウ. 正しい   |
| 6. ア. 誤っている | イ. 正しい   | ウ. 誤っている |
| 7. ア. 誤っている | イ. 誤っている | ウ. 正しい   |
| 8. ア. 誤っている | イ. 誤っている | ウ. 誤っている |

## 2. 損害の認定および保険金の支払いについて

- ア. この保険では、72 時間以内に生じた 2 以上の地震等は、これらを包括して 1 回の地震等とみなすが、被災地域が全く重複しない場合には、おのこの別の地震等として取り扱う。
- イ. この保険では、地震が生じた後における事故の拡大防止または緊急避難に必要な処置によって保険の対象に生じた損害は、この保険で補償される損害には含まれない。
- ウ. この保険では、保険の対象である生活用動産の損害認定を行う場合、個々の生活用動産の損傷状況により行う。

## 《選択肢》

- |             |          |          |
|-------------|----------|----------|
| 1. ア. 正しい   | イ. 正しい   | ウ. 正しい   |
| 2. ア. 正しい   | イ. 正しい   | ウ. 誤っている |
| 3. ア. 正しい   | イ. 誤っている | ウ. 正しい   |
| 4. ア. 正しい   | イ. 誤っている | ウ. 誤っている |
| 5. ア. 誤っている | イ. 正しい   | ウ. 正しい   |
| 6. ア. 誤っている | イ. 正しい   | ウ. 誤っている |
| 7. ア. 誤っている | イ. 誤っている | ウ. 正しい   |
| 8. ア. 誤っている | イ. 誤っている | ウ. 誤っている |

## 【問題9】

Cさんは、自分の住居専用建物と同建物内収容の生活用動産（家財）を保険の対象として、建物の保険金額は5,000万円、生活用動産（家財）の保険金額は1,000万円で住宅総合保険契約を締結しました。その際、同時に「地震保険に関する法律」に基づく地震保険を付帯することにし、地震保険契約の保険金額を、建物、生活用動産（家財）とも契約できる最高額で設定しました。

過日、地震に起因する火災により、建物および生活用動産（家財）が損害を被りました。損害の状況が以下の場合、次の1および2の金額を解答用紙に記入して下さい（支払われない場合には「なし」と解答用紙に記入して下さい）。

なお、地震発生時のこの建物および生活用動産（家財）の保険価額については、いずれも主契約である住宅総合保険契約の保険金額と同額とし、契約始期日および地震発生日は2017年1月1日以降であることを前提とします。また、算出した額に1万円未満の端数が生じた場合には、千円の位を四捨五入して万円単位で答えて下さい。

〔損害の状況〕

|       | 建 物     | 生活用動産（家財） |
|-------|---------|-----------|
| 損 害 額 | 1,500万円 | 600万円     |

（注）建物の焼失床面積は考慮不要とし、建物の損害額1,500万円は、地震に起因した火災による地震保険における主要構造部の損害額とします。

1. 地震保険から建物および生活用動産（家財）の損害に対して支払われる保険金は、それぞれいくらになりますか。
2. 主契約である住宅総合保険から建物および生活用動産（家財）の損害に対して支払われる地震火災費用保険金は、それぞれいくらになりますか。

**【問題 10】**

次の1～4の記述は、火災保険による債権の保全について述べたものです。その内容が正しいものには○で、誤っているものには×で、それぞれ答えて下さい。

1. 火災保険金請求権に質権を設定した者がそのことを保険会社以外の第三者に対抗主張するためには、質権設定承認請求書に質権者と質権設定者が連署して、損害保険会社の承認を得る必要がある。
2. 臨時費用、残存物取片づけ費用などの費用保険金および利益保険などの各保険金の請求権には、通常、質権の効力が及ばないとされているので、これらに質権設定の効力を及ぼせるには質権設定承認請求書にその旨を明記する必要がある。
3. 損害保険会社は、保険料入金前に火災保険契約について質権設定を承認した場合であっても、債権者（質権者）に対し保険料未収による免責を主張することができる。
4. 火災保険の保険金請求権に対する質権の設定は、質権者と質権設定者の契約によって成立する諾成契約で、質権者は被担保債権の債権者であり、質権設定者は担保物に付された火災保険の被保険者である。

**【問題 11】**

次の1～6の記述は、新種保険について述べたものです。その内容が正しいものを3つ選び、その番号を答えて下さい。

1. 機械保険では、損害の拡大防止や軽減をするための必要かつ有益な費用は損害額に含める。
2. 組立保険では、工事現場において、保険の対象の設計、製作または材質上の欠陥により、不測かつ突発的な事故によって保険の対象に損害が生じた場合、その損害は保険金支払いの対象となるが、保険の対象の設計、材質または製作の欠陥を除去するための費用は保険金支払いの対象とはならない。
3. 盗難保険では、保険の対象である動産が窃盗もしくは強盗のために生じた盗取による損害のほか、窃盗もしくは強盗のために生じた火災または爆発による損害も保険金支払いの対象となる。
4. 土木工事保険では、土砂の圧密沈下のために追加して行った埋立、盛土または整地工事の費用は保険金支払いの対象とはならない。
5. 動産総合保険では、加工（修理を除く）または製造中の動産は、保険の対象に含まれる。
6. 賠償責任保険の施設所有（管理）者特別約款では、施設の内外で被保険者が行う生産、販売、サービス等の業務遂行に起因する事故で、他人の身体、生命を害し、または他人の財物に損害を与え、被保険者が法律上の損害賠償責任を負担することによって被った損害は、保険金の支払い対象とはならない。

## 【問題 12】

自動車保険の対物賠償保険に関する次の1および2のそれぞれの記述の正誤の組合せとして、正しいものを下の選択肢から1つ選び、その番号を答えて下さい。

## 1. 被保険者について

- ア. この保険では、法人所有の自動車の場合には、通常、その法人の代表者が記名被保険者となる。
- イ. この保険では、自動車修理工場の従業員が修理委託主から預かった被保険自動車を試運転していた際に対物事故を起こしても、その修理工場が被る損害に対して保険金は支払われない。
- ウ. この保険では、被保険自動車を使用または管理中の「記名被保険者またはその配偶者」の別居の未婚の子は常に被保険者となる。

## 《選択肢》

- |             |          |          |
|-------------|----------|----------|
| 1. ア. 正しい   | イ. 正しい   | ウ. 正しい   |
| 2. ア. 正しい   | イ. 正しい   | ウ. 誤っている |
| 3. ア. 正しい   | イ. 誤っている | ウ. 正しい   |
| 4. ア. 正しい   | イ. 誤っている | ウ. 誤っている |
| 5. ア. 誤っている | イ. 正しい   | ウ. 正しい   |
| 6. ア. 誤っている | イ. 正しい   | ウ. 誤っている |
| 7. ア. 誤っている | イ. 誤っている | ウ. 正しい   |
| 8. ア. 誤っている | イ. 誤っている | ウ. 誤っている |

## 2. 保険金について

- ア. この保険では、被保険者が被保険自動車の運転を誤り被保険者の父親が所有する住宅建物に衝突し、その外壁を破損させた場合、その損害は保険金支払いの対象となる。
- イ. この保険で保険金が支払われる損害は、被保険者が他人の財物に与えた損害に限られ、物を壊した結果生じた休車損害や代車費用等の間接的な損害は、保険金支払いの対象とならない。
- ウ. この保険では、被保険者が被保険自動車を運転中に発生した地震によってハンドルを取られ、駐車中の他人の自動車に衝突してその自動車を破損させた場合、保険金は支払われない。

## 《選択肢》

- |             |          |          |
|-------------|----------|----------|
| 1. ア. 正しい   | イ. 正しい   | ウ. 正しい   |
| 2. ア. 正しい   | イ. 正しい   | ウ. 誤っている |
| 3. ア. 正しい   | イ. 誤っている | ウ. 正しい   |
| 4. ア. 正しい   | イ. 誤っている | ウ. 誤っている |
| 5. ア. 誤っている | イ. 正しい   | ウ. 正しい   |
| 6. ア. 誤っている | イ. 正しい   | ウ. 誤っている |
| 7. ア. 誤っている | イ. 誤っている | ウ. 正しい   |
| 8. ア. 誤っている | イ. 誤っている | ウ. 誤っている |

**【問題 13】**

次の1～6の記述は、保険法について述べたものです。その内容が正しいものには○で、誤っているものには×で、それぞれ答えて下さい。

1. 保険者が告知義務違反によって損害保険契約を解除した場合、損害保険契約の解除前に発生した保険事故による損害はてん補されないが、不告知や不実告知の事実に基づかずに発生した保険事故による損害はてん補される。
2. 損害保険契約の解除は、売買契約などの一般的な契約と同じく、契約締結時にさかのぼってその効力が生じる。
3. 損害防止義務は、保険事故発生自体の防止義務ではなく、保険事故発生後の損害の発生および拡大を防止する義務である。
4. 損害保険契約の目的（被保険利益）は、確定できる利益である必要があるが、その利益自体が保険期間中に確定し得るものであれば、保険契約時に確定していなくてもよい。
5. 保険法では、一般消費者の日常生活に伴う危険を補償する損害保険契約だけでなく、企業・個人事業主等の事業活動に伴う危険を補償する損害保険契約にも片面的強行規定が適用される。
6. 保険法では、告知義務違反による保険契約の解除権は、保険者が解除の原因があることを知った時から3か月間行使しないとき、または損害保険契約締結時から3年を経過したときは、消滅する。

**【問題 14】**

次の1～6の記述は、損害賠償の法律知識について述べたものです。その内容が正しいものには○で、誤っているものには×で、それぞれ答えて下さい。

1. 不確定期限付きの債務は、債務者が期限の到来を知った時から履行遅滞となるが、債務者が期限の到来の事実を知らなくても債権者が債務者に履行を催告した場合、その催告時から履行遅滞となる。
2. 土地の工作物が原因で第三者に損害が生じ、その損害が不可抗力により発生したと認められる場合、当該工作物の設置または保存に瑕疵がないときでも、土地の工作物の占有者は第一次的に損害賠償責任を負い、その占有者が免責されたときに所有者が第二次的に損害賠償責任を負う。
3. 契約当事者間で「損害賠償額の予定」をした場合、債権者は、債務不履行の事実を証明すれば、損害の発生およびその額を証明することなく、債務者に対してあらかじめ約定した損害賠償額を請求することができ、裁判所は、その額を増減することはできない。
4. 使用者の事業の執行にあたり、被用者が第三者に加えた損害について、使用者または代理監督者が使用者等の責任を負う場合、使用者または代理監督者は、直接の加害者である被用者に故意または重大な過失があるときに限り求償することができる。
5. 判例では、国家賠償法の成立要件の一つである「公権力の行使」には、国公立学校教育活動などの非権力的行為も含まれるとされている。
6. 一般および特殊の不法行為とも、すべて被害者側に挙証責任があり、被害者が加害者の故意または過失により損害を受けたことを証明しなければ損害賠償請求権は認められない。

**【問題 15】**

次の1～6の記述は、リスクマネジメントについて述べたものです。その内容が適切なものには○で、不適切なものには×で、それぞれ答えて下さい。

1. 代替的なリスク移転（ART）のうち地震デリバティブは、保険契約者が損害保険会社に保証料を支払い、一定の地域で震度・マグニチュードに基づく一定規模以上の地震が発生した場合、実際の収益減少額・費用支出額に関係なく、保険契約者に一定の金額が支払われる代替的なリスク移転である。
2. 火災や賠償事故など、発生頻度は低いが損害額の大きいリスクはリスクの保有を選択して経常費で処理し、機械の修理費など、発生頻度は高いが損害額の小さいリスクはリスクの移転を選択して保険を付けることが合理的な方法である。
3. 製造物責任（PL）のリスク対策のうち「製造物責任事故予防対策（PLP）」とは、事故発生前に、クレームに迅速・的確に対応できる体制を社内に確立し、また製造物責任事故が発生した場合の関連企業との責任関係について、契約上、明確に定めておくといった対策のことをいう。
4. 情報セキュリティとは、ISO（国際標準化機構）によって、「情報の機密性」、「完全性」、「可用性」を維持することと定義され、このうち、「完全性」とは、情報が破壊、改ざんまたは消去されない状態を確保することをいう。
5. 純粋リスクとは「損失を被る可能性」だけがあるリスクをいい、各種のオペレーショナル・リスクがこれに該当し、投機的リスクとは、「利得を得る可能性」と「損失を被る可能性」があるリスクをいい、ビジネス・リスクや財務リスクはこれに該当する。
6. リスク・コントロールにおける「リスクの分散」とは、1つのリスクを複数に分割することによって、「損害の規模」および「損害の発生頻度」の軽減を図る手法のことをいう。